

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2019 年 3月 12日

事業所名： こすもす

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	・指定基準以上の指導訓練室の確保 ・指導訓練室以外にも相談室・保護者室、屋外遊戯場を設けている	・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 0 %	利用児童(中高生)によっては狭いと感じる場面がある為、年齢別(学年別)に分けてプログラムを行っている。現状維持と共に必要に応じた展開を検討しておく。
	2 職員の適切な配置	・基準以上の職員配置 ・ボランティアを積極的に受け入れている	・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 0 %	・現体制の維持
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	・施設内バリアフリー ・車椅子用トイレの設置	・はい 67 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 33 %	・文字や絵カードでの掲示 ・声の大きさやより利用者主体で活動しやすい表示や予定表の種類を増やす
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	・毎日清掃実施 ・定期的な玩具・設備の消毒や安全点検 ・定期的な玩具・本等の入れ替え	・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 0 %	・清掃点検表や環境整備の設置
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	・人事評価制度の活用(年2回)	/	・定期的な会議や業務改善に対する振り返り・意見交換を行うようにする
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	・現在外部評価を受けていない	/	・第三者評価の受診を検討する
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	・定期的な研修案内・参加実施 ・外部講師による研修(法人全体で年3回) ・内部研修(月1回)	/	・現状維持 ・研修報告会の充実
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	・サービス等利用計画とアセスメント用紙から個別支援計画を作成 ・定期的なモニタリングの実施 ・相談支援事業所や他事業所との情報交換	・はい 83 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 16 %	アセスメント用紙に記入のお願いをしているが、詳しく話を聞く時間が作れていないこともある。今後話を聞きながらアセスメントを行っていく
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	・利用者に応じて個別活動と集団活動の目標を設定している為、必ずしも全員が両方の目標を設定しているとは限らない	・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 0 %	・今後も相談支援事業所、保護者との聞き取りから作成を継続していく
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	・個別支援計画に記載	・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 0 %	・今後も利用計画を基に本園で実施できる内容を記載と説明を行っていく

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容							
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	・支援計画会議の実施とモニタリング時の会議により支援の見直しを行っている	・継続していく							
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	・各職員による立案を行い、全体での話し合い後、プログラムの実施へと繋がっている	・現状評価の継続と共にアンケート結果による希望や改善点についての実施の継続も行っていく							
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	平日、休日、長期休暇に応じて課題を設定し、その時期に合わせて区別し、活動に取り組んでいる	・長期休暇の長時間利用の希望も多いが、児童発達支援事業を行っていることから、時間の改善を早急に対応することは難しい。しかし、現在の利用時間の中で利用者が満足と納得できる活動を提供していくよう努めていく							
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	・毎月行うプログラムもあるが、主に内容を変更し、目的を持って様々な活動の立案、検討、実施、反省を工夫して行っている	<table border="0"> <tr> <td>・はい</td> <td>100 %</td> </tr> <tr> <td>・いいえ</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>・どちらともいえない</td> <td>%</td> </tr> </table>	・はい	100 %	・いいえ	%	・どちらともいえない	%	・現状評価の継続
	・はい	100 %									
	・いいえ	%									
	・どちらともいえない	%									
8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	・支援開始前の内容確認		・送迎サービスの環境により、職員全体でできないこともあるが、保育現場に入る職員は必ず活動目的・活動内容を話し合って活動をしている。 ・全体で話し合う設定を行う為に話し合う時間設定を考えていく							
9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	・各職員が気づいた点を話し合い、共有している ・外出プログラムや土曜日プログラム等の振り返り時間の確保		振り返り後の今後の目標の具体化や予想される利用者の動きをケース検討していく							
10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	日々の記録は徹底しており、利用者の出来なかったことや出来るようになったこと、取り組む姿勢、その日の機嫌や体調管理なども記入し、支援に繋げると共に、利用者に寄り添えるように些細な変化から汲み取れるよう心がけている		・現状評価の継続							
11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	・定期的なモニタリングの実施 ・必要に応じて相談支援事業所や支援事業者との支援者会議		現状評価の継続 ・定期的以外のモニタリングの必要性の判断が難しいと感じるときもあるので、随時相談支援事業所と密に連携を図っていく							

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	・児童発達支援管理責任者が一括で参画 ・上記の者が参画できない場合も、保育現場に入っている職員が参画できるようにしている		・現状評価の継続
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	・現在受け入れていない。		・今後、受け入れる際は、情報共有を行い、連絡体制を整えていきたいと考えている
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	・現在受け入れていない。		・今後、受け入れる際は、情報共有を行い、連絡体制を整えていきたいと考えている
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	・相談支援事業所からの情報提供 ・送迎サービスの利用者からは、学校(担当教諭)からの情報共有		・同法人内の保育所・こども園等からの相互理解、情報共有は努めることができたが、法人外では情報共有の機会が少なかった為、今後、機会を設けていくように連絡を図る
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	・現在卒園生がいないため、項目の内容は実施していない		今後、卒業生が障害福祉サービス事業所等へ移行する際に情報共有を行っていく
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	・センター等での研修に参加している ・専門職からの助言や連携は図っている		・現状評価の継続 ・専門機関の研修案内を増やす
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	・昨年度は法人内の放課後等デイサービスと交流を行ったが今年度は未実施である	・はい 80 % ・いいえ 7 % ・どちらともいえない 13 % ・放課後等デイサービスでの、健常の子どもとの交流等は希望していない	・法人内の放課後等デイサービスと交流を定期的実施するよう検討していく
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	事業所ではないが、法人主催による地域交流を行い、地域住民を招待するイベントを行っている		・現状評価の継続 ・地域に開かれた事業の運営を目指し、地域からのボランティアの受け入れや行事参加に努める

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	・契約時に一緒に読み合わせを行っている ・不明な場合は契約後も説明を行う	・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 0 %	・利用者負担等分かりづらい点も多い為、契約書等とは別紙で説明を行えるようにする
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	・計画書を読み、保護者と一緒に確認を行っている	・はい 100 % ・いいえ % ・どちらともいえない %	・現状評価の継続
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	助言、アドバイスは行っているが、ペアレント・トレーニング等の支援は行っていない		・ペアレント・トレーニングの研修案内 ・職員の研修受講の検討
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	・利用時の引継ぎ、連絡帳、個人記録等に子どもの状況を話している	・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 0 %	・保護者に伝えているが、保護者にとって互いに伝え合っているという意識になっているかは分からない。その為、定期的に面談機会を検討している
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	保護者にとって適切に応じることができているかは分からないが、悩みや相談を聞いて一緒に解決策を考えている。	・はい 97 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 3 %	・新人職員などは、すぐに対応できないこともある為、発達段階や障害特性を理解する研修の参加や保護者の悩みや気持ちに添える為に、保護者主催の研修等を受講する
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	・父母の会などの活動が現在無い ・保護者会の開催も現在は未実施である	・はい 73 % ・いいえ 13 % ・どちらともいえない 13 %	・アンケートを実施し希望調査を行う
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	・保護者室に苦情・相談ボックスの設置 ・契約時に対応体制の設備を説明 ・苦情時の対応もすぐに対応するとともに、内容に応じては法人内でも話し合うようにしている。	・はい 87 % ・いいえ 13 % (未回答含む) ・どちらともいえない 0 %	・現状評価の継続
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	・必要に応じて絵カードやタイムスケジュールの提示の方法に工夫する ・保護者と相談をして読みやすい文字のフォントや文字の種類なども配慮している	・はい 97 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 3 %	・現状評価の継続
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	・会報等は無いが、毎月予定表を全利用者に配布している ・予定表内に活動概要や行事の際の連絡体制なども保護者にその都度発信している ・以上の内容はホームページにも掲載している	・はい 86 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 13 % ・会報等は無い	・現状評価の継続
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	・玄関にて個人情報保護法の掲示 ・個人情報の取り扱いについて契約時にも説明と同意書を得ている。 発達検査等の取り寄せや研修での事例発表についてはその都度再度、個人情報の取り扱いについて説明と確認を行っている	・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 0 %	・現状評価の継続

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	職員に周知できるようにマニュアルは策定しているが、保護者に周知はできていない。今後周知できるよう、冊子などにまとめ、提示していく	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 83 % ・いいえ 3 % ・どちらとさえない 13 % ・知らないのと思う 	・保護者がいつでも拝観できるよう、保護者室にて各マニュアルの設置を早急に努める
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・非常災害時の音を怖がったり、訓練後から利用を怖がる利用者もいる為、訓練の方法は様々な形で実施 ・地震訓練は行っているが、不審者訓練は行えていない。今後行っていく予定である 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 73 % ・いいえ 0 % ・どちらとさえない 26 % ・実施日に参加していない 又は実施を知らない 	・非常ベルの使用した避難訓練や消防署と連携した訓練も今後実施することを検討している
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	・全員の職員が研修を受けているわけではないが、研修後に研修報告にて内容を周知している	/	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員の研修受講に努める ・年に1回セルフチェックの実施
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	<ul style="list-style-type: none"> ・現段階で身体拘束を行っていない ・契約書内(第4条の2)に記載 	/	・必要になった場合は、保護者と十分に話し合いを行い、了承を得た上で、個別支援計画に記載する
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	子どもに応じたアレルギー反応の症状を周知していると共に、医師の指示書(エピペンの使い方等)を全職員が確認している	/	・現状評価の継続
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	事例集ではないが、ヒヤリハットとされる事案などが発生の際は会議や回覧などで職員が周知する環境を整えている	/	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続 ・ヒヤリハット事例集の作成

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2019 年 3月 12日

事業所名： こすもす

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	・指定基準以上の指導訓練室の確保 ・指導訓練室以外にも相談室・保護者室、屋外遊戯場を設けている	・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 0 %	・現体制の維持
	2 職員の適切な配置	・基準以上の職員配置 ・ボランティアを積極的に受け入れている	・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 0 %	・現体制の維持
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	・施設内バリアフリー ・車椅子用トイレの設置	・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 0 %	・文字や絵カードでの掲示 ・活動場所と食事の場所が同じ「部屋で行っている為、利用者にとっては気持ちの切り替えができてにくい時がある。その場合はセパレートを使用し、工夫している
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	・毎日清掃実施 ・定期的な玩具・設備の消毒や安全点検 ・定期的な玩具・本等の入れ替え	・はい 92 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 8 % ・使用頻度が少ない又は多いからか、玩具の汚れが気になることがある	・清掃点検表や環境整備の設置 ・隅々までの清掃を心がける
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	・人事評価制度の活用(年2回)		・定期的な会議や業務改善に対する振り返り・意見交換を行うようにする
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	・現在外部評価を受けていない		・第三者評価の受診を検討する
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	・定期的な研修案内・参加実施 ・外部講師による研修(法人全体で年3回) ・内部研修(月1回)		・現状維持 ・研修報告会の充実
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	・サービス等利用計画とアセスメント用紙から個別支援計画を作成 ・定期的なモニタリングの実施 ・相談支援事業所や他事業所との情報交換	・はい 83 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 16 %	アセスメント用紙に記入のお願いをしているが、詳しく話を聞く時間が作れていないこともある。今後話を聞きながらアセスメントを行っていく
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	・利用者に応じて個別活動と集団活動の目標を設定している為、必ずしも全員が両方の目標を設定しているとは限らない	・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 0 %	・今後も相談支援事業所、保護者との聞き取りから作成を継続していく
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	・個別支援計画に記載	・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 0 %	・今後も利用計画を基に本園で実施できる内容を記載と説明を行っていく

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	・支援計画会議の実施とモニタリング時の会議により支援の見直しを行っている	・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 0 %	・現状評価の継続
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	・各職員が担当で立案を行い、全体での話し合い後、プログラムの実施へと繋がっている		・現状評価の継続と共にアンケート結果による希望や改善点についての実施の継続も行っていく
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	・基本的に平日に行っている ・活動内容に応じて時間の変更を行うこともある(遠足等)		・土曜日の活動や幼稚園・保育園終了後に利用したい等の希望も多いが、放課後等デイサービス事業を行っていることから、時間の改善を早急に対応することは難しい。しかし、現在の利用時間の中で利用者が満足と納得できる活動を提供していくよう努めていく
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	・毎月行うプログラムもあるが、主に内容を変更し、目的を持って様々な活動の立案、検討、実施、反省を工夫して行っている	・はい 100 % ・いいえ % ・どちらともいえない %	・現状評価の継続
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	・支援開始前の内容確認		・送迎サービスの環境により、職員全体でできないこともあるが、保育現場に入る職員は必ず活動目的・活動内容を話し合って活動をしている。 ・全体で話し合う設定を行う為に話し合う時間設定を考えていく
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	・各職員が気づいた点を話し合い、共有している ・外出プログラムや土曜日プログラム等の振り返り時間の確保 ・専門職(音楽療法・言語聴覚士等)の活動後に支援の確認や集団内での関わり方の指導		・送迎等で参加できない職員がいない場合も話し合った内容の報告を共有している。 ・振り返り後の今後の目標の具体化や予想される利用者の動きをケース検討していく
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	日々の記録は徹底しており、利用者の出来なかったことや出来るようになったこと、取り組む姿勢、その日の機嫌や体調管理なども記入し、支援に繋げると共に、利用者に寄り添えるように些細な変化から汲み取れるよう心がけている		・現状評価の継続
11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	・定期的なモニタリングの実施 ・必要に応じて相談支援事業所や支援事業者との支援者会議		・現状評価の継続	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	・児童発達支援管理責任者が一括で参画 ・上記の者が参画できない場合も、保育現場に入っている職員が参画できるようにしている		・現状評価の継続
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	・現在受け入れていない。		・今後、受け入れる際は、情報共有を行い、連絡体制を整えていきたいと考えている
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	・現在受け入れていない。		・今後、受け入れる際は、情報共有を行い、連絡体制を整えていきたいと考えている
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	・相談支援事業所からの情報提供 ・支援者会議の参加 ・保護者の依頼により、電話・見学の受け入れ等		・支援者会議で情報共有を行うことはあるが、全児童行うことができていない。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供			
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	・センター等での研修に参加している ・専門職からの助言や連携は図っている		・現状評価の継続 ・専門機関の研修案内を増やす
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	・地域の幼稚園が開催している園庭開放へ参加。しかし、交流までできていない。 ・図書館で開催されているお話の会の参加(月1回)	・はい 92 % ・いいえ 0 % ・どちらと云えない 8 % ・園庭開放以外の機会があれば興味があり、参加もしたい	・現状評価の維持 ・地域以外の園庭開放の参加や交流の検討 ・他事業所と交流プログラムの検討
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	事業所ではないが、法人主催による地域交流を行い、地域住民を招待するイベントを行っている		・現状評価の継続 ・地域に開かれた事業の運営を目指し、地域からのボランティアの受け入れや行事参加に努める

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	・契約時に一緒に読み合わせを行っている ・不明な場合は契約後も説明を行う	・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 0 %	・利用者負担等分かりづらい点も多い為、契約書等とは別紙で説明を行えるようにする
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	・計画書を読み、保護者と一緒に確認を行っている	・はい 100 % ・いいえ % ・どちらともいえない %	・現状評価の継続
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	助言、アドバイスは行っているが、ペアレント・トレーニング等の支援は行っていない	・はい 92 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 8 % ・相談や話を聞いてもらえるだけで気軽になることがある	・ペアレント・トレーニングの研修案内 ・職員の研修受講の検討
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	・利用時の引継ぎ、連絡帳、個人記録等に子どもの状況を話している	・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 0 %	・保護者に伝えているが、保護者にとって互いに伝え合っているという意識になっているかは分からない。その為、定期的に面談機会を検討している
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	保護者にとって適切に応じることができているかは分からないが、悩みや相談を聞いて一緒に解決策を考えている。	・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 0 % ・日々の話の中で助言してもらえることはある	・定期的な面談会の検討
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	・父母の会などの活動が現在無い ・保護者会の開催も現在は未実施である	・はい 67 % ・いいえ 8 % ・どちらともいえない 8 % ・分からない 17 % ・お迎えの時間に他児の保護者と話す機会が十分に確保されている	・アンケートを実施し希望調査を行う
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	・保護者室に苦情・相談ボックスの設置 ・契約時に対応体制の設備を説明 ・苦情時の対応もすぐに対応するとともに、内容に応じては法人内でも話し合うようにしている。	・はい 92 % ・いいえ 8 % (未回答含む) ・どちらともいえない 0 %	・現状評価の継続
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	・必要に応じて絵カードやタイムスケジュールの提示の方法に工夫する ・保護者と相談をして読みやすい文字のフォントや文字の種類なども配慮している	・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 0 %	・現状評価の継続
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	・会報等は無いが、毎月予定表を全利用者に配布している ・予定表内に活動概要や行事の際の連絡体制なども保護者にその都度発信している ・以上の内容はホームページにも掲載している	・はい 100 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 0 %	・現状評価の継続
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	・玄関にて個人情報保護法の掲示 ・個人情報の取り扱いについて契約時にも説明と同意書を得ている。 ・発達検査等の取り寄せや研修での事例発表についてはその都度再度、個人情報の取り扱いについて説明と確認を行っている	・はい 92 % ・いいえ 0 % ・どちらともいえない 0 % ・分からない 8 %	・現状評価の継続 ・利用者が不明になっている点を調査・改善

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	職員に周知できるようにマニュアルは策定しているが、保護者に周知はできていない。今後周知できるよう、冊子などにまとめ、提示していく	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 75 % ・いいえ 0 % ・どちらとさえない 16 % ・分からない 8 % 	・保護者がいつでも拝観できるよう、保護者室にて各マニュアルの設置を早急に努める
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・非常災害時の音を怖がったり、訓練後から利用を怖がる利用者もいる為、訓練の方法は様々な形で実施 ・地震訓練は行っているが、不審者訓練は行っていない。今後行っていく予定である 	<ul style="list-style-type: none"> ・はい 50 % ・いいえ 8 % ・どちらとさえない 8 % ・分からない 33 % ・実施日に参加していない 又は実施を知らない 	・非常ベルの使用した避難訓練や消防署と連携した訓練も今後実施することを検討している
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	・全員の職員が研修を受けているわけではないが、研修後に研修報告にて内容を周知している	/	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員の研修受講に努める ・年に1回セルフチェックの実施
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	<ul style="list-style-type: none"> ・現段階で身体拘束を行っていない ・契約書内(第4条の2)に記載 	/	・必要になった場合は、保護者と十分に話し合いを行い、了承を得た上で行き、個別支援計画に記載する
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	子どもに応じたアレルギー反応の症状を周知していると共に、医師の指示書(エピペンの使い方等)を全職員が確認している	/	・現状評価の継続
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	事例集ではないが、ヒヤリハットとされる事案などが出た際は会議や回覧などで職員が周知する環境を整えている	/	<ul style="list-style-type: none"> ・現状評価の継続 ・ヒヤリハット事例集の作成